

平成 26 年 7 月 3 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320087

研究課題名(和文) 漢字字体変容の原理 敦煌文献から現代日本戸籍漢字まで

研究課題名(英文) The principle of historical kanji glyph change and geographical kanji glyph difference

研究代表者

高田 智和 (TAKADA, TOMOKAZU)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・理論・構造研究系・准教授

研究者番号：90415612

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円、(間接経費) 4,020,000円

研究成果の概要(和文)：奈良時代から現代までの日本の漢字(日本の筆写漢字に多大な影響を与えた唐から宋時代の中国漢字も含む)について、公的性格・規範性の高い文献での用例整理と、私的性格の強い文献での用例整理に基づき、歴史的変遷・共時的異化の二面からなる資料体を作成した。また、この資料体の作成により、漢字字体の基礎概念を明確化し、字体編年基準の透明化を行い、その知見を『漢字字体史研究』(石塚晴通編、勉誠出版、2012年)として公刊した。

研究成果の概要(英文)：We construct the database about kanji glyphs collected from historical manuscripts and printed books. The database contains two type glyphs, one is the normative glyphs from the normative books in each time period and geographical regions, and the other is non-ormative glyphs from the praivate books. So we can comprehend the historical glyph change and geographical glyph difference in the East Asi s. And we clarify the basic concept about kanji glyph.

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：日本語学

キーワード：漢字字体 字体規範 字体編年 漢字字体規範データベース 敦煌文献 日本語活字

### 1. 研究開始当初の背景

漢字の字体には規範がある。しかしながら、漢字字体規範の通史は、未だに書かれていない。そもそも、字体規範を論ずるための字体の基礎理論・基本用語すら、未だに国際的な合意を見ない状況にある。この状況は、理論・用語を適用するための具体的な資料体の未整理に起因する面も大きい。

近年、諸処の機関・研究グループで、漢字字体の通史の記述に寄与できる資料体が作成され、研究利用が可能となっている。「漢字字体規範データベース(HNG)」もその一つで、公的性格・規範性の高い文献から漢字字体用例を収集し、規範的な字体資料の史的通覧を実現している点に特色がある。

また、現代日本の字体規範からの私的変種・逸脱(いわゆる「異体字」として一括されることもある)を含む資料体には、戸籍・登記等の行政記録に用いられる「行政漢字」がある。私的変種・逸脱について字体変容の過程や漢字字体史の中での位置付け等、学術的な知見と基盤によって検討することは、まだ為されていない。このことも、漢字字体規範の通史が未だ書かれていないことに起因する。

歴史的変遷・共時的異化の二面から漢字字体の変容の原理を解明することが、資料体が整いつつある現在において、文字研究の次の課題である。

### 2. 研究の目的

本研究は、主として奈良時代から現代の日本の漢字(日本の筆写漢字に多大な影響を与えた唐~宋時代の中国漢字も含む)について、(1)漢字字体の字体規範の史的通覧(公的性格・規範性の高い文献での用例整理に基づく)

(2)規範的字体からの私的変種の類型化(主に私的性格の強い文献での用例整理に基づく)

すなわち、歴史的変遷・共時的異化の二面からなる資料体を作成し、これに基づいて、漢字字体の基礎概念を明確化した上で、字体編年規準の透明化(「勘と経験」に頼らない)を行ない、漢字字体の規範と、その変容の原理に初めて客観的な記述を与えることを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 資料体の整備

次の資料体の連携・統合作業を行ない、不足分は、本研究により増補する。

□規範的字体の史的変遷(奈良~江戸時代初期の日本)に関する「漢字字体規範データベース(HNG)」(本研究組織の前身により構築済)、写本・版本等の漢字字体を対象。

□現代戸籍・登記などの行政記録中の「行政漢字」資料体(経済産業省委託により研究代表者等が構築済)、現代の漢字字体を対象。

□HNGと「行政漢字」の間をつなぐ日本語活

字資料(キリシタン版、古活字版、近代活字見本帳等)を選抜し、本研究により増補。活字印刷の漢字字体を対象。

#### (2) 字体編年の確認

字体規範は文献の性格・書誌に強く依存するため、HNG収録の日本古写本、中国古写本(敦煌本)を中心に、字体編年を確認するための原本調査を行なう。

#### (3) 字体基礎理論の国際化

字体編年に関わる要素の抽出と類型化を行なった結果を基に、漢字字体の基礎概念・基本用語(日本語・英語)の諸案を検討し、字体基礎理論を国際的に通用し得るものとする。

### 4. 研究成果

(1)漢字字体規範データベースに収録されている(今後の収録を検討しているものも含む)大英図書館蔵のスタイン・コレクション、パリ国立図書館蔵のペリオ・コレクション、京都国立博物館蔵の日本古写本について、字体編年確認のための原本調査を行った。

[平成22年度]

・S2071 切韻など(大英図書館蔵スタイン・コレクション)

・P2179 誠実論巻第八、P2195 妙法蓮華経巻第六など(パリ国立図書館蔵ペリオ・コレクション)

・守屋本妙法蓮華経巻第三、岩崎本日本書紀巻第二十四など(京都国立博物館蔵日本古写本)

[平成23年度]

・P2548 論語、P3278 金剛般若経など(パリ国立図書館蔵ペリオ・コレクション)

・浄名玄論巻第四、五月一日経統高僧伝巻第二十八など(京都国立博物館蔵日本古写本)

[平成24年度]

・S2577 妙法蓮華経巻第八、S4553 大通方広経など(大英図書館蔵スタイン・コレクション)

・金剛頂経巻第三、法蔵和尚伝など(京都国立博物館蔵日本古写本)

[平成25年度]

・P2106 大智度論巻第八、P2117 大般涅槃経巻第三十三、P2195 妙法蓮華経巻第六など(パリ国立図書館蔵ペリオ・コレクション)

(2)漢字字体規範史において重要視されている唐代石刻「開成石経」の原碑(西安碑林博物館蔵)と原拓(京都大学人文科学研究所蔵)の調査を行った。

(3)それぞれの原本調査にあたっては、書誌学、文献学、日本語学、韓国語学、言語学、材料工学の専門家を交え、原本を前にして、字体編年に関わる要素の抽出と類型化のための基礎的な検討を行った。

(4)漢字字体資料としての整備が手薄な日

本近世・中世について、寛永古活字本韻府群玉、伏見版周易、駿河版群書治要など古活字版を中心に、資料体増補のための撮影を行った。

(5) 現代中国及び日本の漢字の共時的異化を収録した「異体漢字対応テーブル」を作成し、人間文化研究機構の研究資源共有化統合検索システムに提供した。

(6) 以上の知見を国内外の学会で公表するとともに、日本語学会 2011 年度春季大会においてワークショップ「文字研究における画像データベースの利活用」、2011 International Conference on Japanese Language Education においてワークショップ「異文化コミュニケーションとしての漢字・漢語・漢文」、漢字字体史研究国際シンポジウム「字体規範と異体の歴史」、The 5th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese において企画パネル「漢字と ICT の活用」を企画・実施し、第 97 回情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会において企画セッション「文字情報のデータベース化と連携の可能性」を企画協力・実施した。

(7) 『漢字字体史研究』(石塚晴通編、勉誠出版)、『敦煌学・日本学 続編』(石塚晴通編、上海辞書出版社)を編集・刊行し、漢字字体基礎理論の英語ハンドブックの編集準備を行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 19 件)

1. 高田智和、日本語学習者に対する漢字字形デザインの選好調査 台湾の学習者の場合、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、6号、2014、44-53
2. 高田智和、字形・字体・字種と異体字、日本語学、査読無、第 32 巻第 5 号、2013、180-191
3. 豊島正之、キリシタン版の形、上智大学国文学論集、査読無、47、2014、1-17
4. 高田智和、国語研本金剛頂経の漢字字体、『漢字字体史研究』(勉誠出版)、査読無、2012、pp.246-258
5. 高田智和、行政用漢字の文字同定 汎用電子情報交換環境整備プログラムの場合、『漢字字体史研究』(勉誠出版)、査読無、2012、pp.173-190
6. 高田智和、日下部重太郎の漢字研究 三種の「日下部表」と『国民字典』、『新新代の世界日語教育研究』(高等教育出版社)、査読無、2012、pp.231-239
7. 高田智和、近代日本語文献を電子化するための文字集合「太陽コーパス」を JIS

X 0213 集合で表現する、日本語文化、査読有、第 23 輯、2012、162-184

8. 高田智和、文字・表記(現代・理論)、日本語の研究、査読無、第 8 巻 3 号、2012、pp.75-81
9. 石塚晴通、漢字字体規範史上の『龍龕手鏡』、口訣研究、査読有、第 30 輯、2012、pp.5-24
10. 小野芳彦、異体字検証の試み ユニコードの拡張でどの程度異体が弁別できるようになっているのか、『漢字字体史研究』(勉誠出版)、査読無、2012、pp.191-210
11. 豊島正之、金属活字と文字の同一性、『漢字字体史研究』(勉誠出版)、査読無、2012、pp.28-44
12. 高田智和、ア行の/e/・ヤ行の/je/を表わす仮名文字の標準化、漢字文献情報処理研究、査読無、第 12 号、2011、pp.4-12
13. 豊島正之、キリシタン文献の和紙、『古典籍古文書料紙事典』(八木書店)、査読無、2011、pp.305-309
14. 高田智和、「景観文字」の記録と分析のために、『世界の言語景観 日本の言語景観』(桂書房)、査読無、2011、pp.149-165
15. 高田智和、現代日本語コーパスにおける文字処理、人間文化研究情報資源共有化研究会報告集、査読無、2、2011、pp.31-40
16. 石塚晴通、十七条憲法 日本人の常識・道徳、日本語学、査読有、第 47 輯、2010、pp.1-12
17. 石塚晴通・唐煒、漢字字体規範数拠庫(HNG)の現状、『専門図書館情報機構的知識服務創』(新国家図書館出版社)、査読有、2010、pp.130-139
18. TOYOSIMA, Masayuki, Base-de-datos de dicionarios portugueses para el estudio de la historiografia de la lengua japonesa de mil quinientos, Ideias Linguisticas na Peninsula Iberica (séc. XIV a séc. XIX), 査読有, vol.2, 2010, pp.865-875
19. 豊島正之、文献から言語音の歴史を辿るとは、『日本語研究の 12 章』(明治書院)、査読無、2010、pp.325-339

[学会発表](計 17 件)

1. 高田智和、日下部重太郎の「常用漢字等級表」と『国民字典』、第 2 回国際シンポジウム「ベトナムにおける日本語教育・日本研究 過去・現在・未来」、2013 年 10 月 15 日、ハノイ大学(ベトナム)
2. 高田智和、碑文と言語情報、中、日、韓 學術論壇“東亞文化與民俗、宗教”、2013 年 9 月 4 日、華僑大学(中国)
3. 高田智和、ヲコト点の座標表現、正倉院文書の高度情報化研究シンポジウム、2013 年 1 月 26 日、東大寺総合文化セン

- ター金鐘会館
4. 高田智和、漢字字体と典籍の性格との関係 「漢字字体規範データベース」が主張するもの、第 97 回情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会、2013 年 1 月 25 日、東京大学史料編纂所
  5. 高田智和、ISO/IEC 10646 への住基文字収録、第 7 回ワークショップ：文字 ISO/IEC 10646 と Unicode の今、2012 年 12 月 22 日、京都大学東京オフィス
  6. SHIRAI, Jun & TOYOSHIMA, Masayuki, Creation of metallic movable types of Japanese KANJI/KANA by the Jesuits, The 7th international conference on Missionary Linguistics, 2012 年 3 月 1 日、University of Bremen, Germany
  7. 高田智和・盛思超・山田太造、網羅性を志向しない異体漢字対応テーブル、第 93 回情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会、2012 年 1 月 27 日、奄美市立奄美博物館
  8. 石塚晴通・池田証寿・高田智和・岡墻裕剛・斎木正直、漢字字体規範データベース (HNG) の活用 漢字字体と文献の性格、人文科学とコンピュータシンポジウム 2012、2011 年 12 月 11 日、龍谷大学
  9. TOYOSHIMA, Masayuki, Fazer ligações entre dicionários históricos on-line, e manter bases-de-dados distribuídos, Simpósio sobre a historiografia linguística, Simpósio sobre a historiografia linguística, Universidade de São Paulo, Brasil
  10. TOYOSHIMA, Masayuki, Arquivos digitais japoneses para a pesquisa da historiografia linguística, Simpósio internacional "Estudos japoneses na América Latina : Diálogos, perspectivas e projetos conjuntos", 2011 年 9 月 29 日, Associação brasileira de estudos japoneses (ABEJ), Centro de estudos japoneses, São Paulo, Brasil
  11. 高田智和・渡辺さゆり・唐煒・白井純・朴均轍、〔ワークショップ〕異文化コミュニケーションとしての漢字・漢語・漢文、2011 International Conference on Japanese Language Education、2011 年 8 月 21 日、天津外国語大学 (中国)
  12. 高田智和・石塚晴通・安岡孝一・當山日出夫・池田証寿、〔ワークショップ〕文字研究における画像データベースの活用、日本語学会 2011 年度春季大会、2011 年 5 月 28 日、神戸大学
  13. 高田智和・當山日出夫、訓点資料デジタル画像化の諸問題、東洋学へのコンピュータ利用第 22 回研究セミナー、2011 年 3 月 18 日、京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター

14. TOYOSHIMA, Masayuki, Manter os base-de-datos dos dicionários portugueses e multi-linguais dos mil quinientos [ポルトガル語], Workshop on multilingual dictionary databases, 2010 年 11 月 25 日, Universidade de Trás-os-Montes e Alto Douro
15. 高田智和、台湾の日本語学習者に対する漢字字形デザインの選好調査、2010 International Conference on Japanese Language Education、2010 年 7 月 31 日、国立政治大学 (台湾)
16. Harumichi ISHIZUKA, Yellow Corrections Added to the Pelliot chinois Manuscripts from Dunhuang, International Dunhuang Project Symposium 2010, 2010 年 7 月 12 日、龍谷大学
17. 石塚晴通、"Descriptive Catalogue of the Chinese Manuscripts with Reading Marks and Notes from Dunhuang" (『敦煌点本書目』)の英文術語、第 102 回訓点語学会研究発表会、2010 年 5 月 23 日、京都大学

〔図書〕(計 5 件)

1. 高田智和・横山詔一(編)、日本語文字・表記の難しさとおもしろさ、彩流社、2014、261
2. 石塚晴通(編)、敦煌学・日本学 続編、上海辞書出版社、2013、459
3. 豊島正之(編著)、キリシタンと出版、八木書店、2013、378
4. 石塚晴通(編著)、漢字字体史研究、勉誠出版、2012、407
5. 豊島正之(共著)、天草版ラテン文典、八木書店、2012、635

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 出願年月日：  
 国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 取得年月日：  
 国内外の別：

〔その他〕

## ホームページ等

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

高田 智和 (TAKADA, Tomokazu)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・理論・構造研究系・准教授  
研究者番号：90415612

#### (2) 研究分担者

石塚 晴通 (ISHIZUKA, Harumichi)  
北海道大学・文学研究科・名誉教授  
研究者番号：10002289

小野 芳彦 (ONO, Yoshihiko)  
北海道大学・文学研究科・教授  
研究者番号：20126022

豊島 正之 (TOYOSHIMA, Masayuki)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：10180192

#### (3) 連携研究者

赤尾 栄慶 (AKAO, Eikei)  
独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・副部長 (上席研究員)  
研究者番号：20175764

池田 証壽 (IKEDA, Shoju)  
北海道大学・文学研究科・教授  
研究者番号：20176093

大槻 信 (OTSUKI, Makoto)  
京都大学・文学研究科・准教授  
研究者番号：60291994

小助川 貞次 (KOSUKEGAWA, Teiji)  
富山大学・人文学部・教授  
研究者番号：20201486

白井 純 (SHIRAI, Jun)  
信州大学・人文学部・准教授  
研究者番号：20312324

當山 日出夫 (TOUYAMA, Hideo)  
立命館大学・客員研究員  
研究者番号：20469109

横山 詔一 (YOKOYAMA, Shoichi)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・理論・構造研究系・教授  
研究者番号：60182713